

### 岩井化成

茨城・石岡で約80人参加

# 植樹でCO<sub>2</sub>吸収

## 廃農プラ製ごみ袋製造時の排出分

の植林事業や風力発電を対象にしているが、この森は排出した企業が植林によってダイレクトにカーボンオフセットすることを目的とする。

清水社長は「当社の製品は日本で集められたものからつくられたもの。このカーボンオフセットに地元の茨城県を育成することで貢献したい」と述べている。

岩井化成(茨城県坂東市、清水弘社長、0297・355・1879)は3月26日、茨城県石岡市内の山林で、排出した二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を吸収するための「清風の森」植樹祭を行った。同社社員他、地元「しずかの創造苑」の利用者と職員、取引先関係者、土地所有者、石岡市、つくばね森林組合、森林認証団体「風人茨城環境カウンセリング協会」、ボランティアの一般市民ら約80人が参加した。同社が使用済みの農業用ポリエチレンハウスを原料に組み袋「農強ダストパック」

を製造するとき発生するCO<sub>2</sub>を吸収するために行うもので、排出した企業がダイレクトにカーボンオフセットをすることを狙っている。

同社が製造しているごみ袋「農強ダストパック」は、バージン原料を使ったごみ袋の製造に比べるとCO<sub>2</sub>の排出量が約65%少ない。「農強ダストパック」についてはライフサイクルアセスメント(LCA)を行い、製造時のCO<sub>2</sub>排出量を算出した。

岩井化成はまず、植樹に先立って土地所有者との土地使用借地契約、横田凱夫石岡市長との森林保全活動に関する協定、木崎眞つくばね森林組合理事組合長との森林施業管理委託を内容とする調印式を行った。

今回の「清風の森」は、1.5haの土地にナラの木1500本、桜の木80本を植樹したが、今後5年以内に植樹数を増やし、



清水弘社長



熱心に木を植える参加者

「農強ダストパック」製造時に発生するすべてのCO<sub>2</sub>を吸収できる森づくりを目指す。現状の多くのカーボンオフセットは、海外

「農強ダストパック」